

井川さんが
「現代の名工」に



厚生労働省が卓越した技能者と認める平成14年度の「現代の名工」に、井川幸則さん（中溝）が選ばれ、11月22日に東京都内で表彰されました。

「現代の名工」は、厚生労働大臣が年1回、極めて優れた技能を有する現役の方（約150人）を表彰するものです。

井川さんは、マツダ㈱の自動車車体組立領域において、板金加工、溶接組立技能の第一人者として活躍されてこられ、昭和48年には技能五輪の国際大会1位を獲得されています。また、自動車の組立プロセスで、手溶接分野を自動化するなど、生産効率の向上にも貢献されてきました。

現在では、社内で技能の伝承者として後進の指導にもあたられています。

井川さんは、「いつもどのようなにしたら効率的に仕事ができるかと考えながら仕事をしてきました。技能を磨けば、作業が早く済み、更に上質なものを作るにはどのようにすればよいかと考えることができますから。」と、モノ作りに対する探究心を語ってくださいました。（企画課）

伴木さん、
青年海外協力隊員として
インドネシアへ



JICA（国際協力事業団）の「青年海外協力隊」として、12月9日にインドネシアに派遣された伴木正幸さん（萩原）が、出発挨拶のため11月25日に町長を表敬訪問され、町長から「体に気を付けて、がんばってきてください」と激励を受けられました。

伴木さんは、今後2年間、

インドネシアのタシックマラヤ職業訓練校で、自動車整備を指導されます。

青年海外協力隊は、主に開発途上国との人々のために、自分の知識や技術を生かし、貢献したいという意欲を持った日本の若者達を2年間派遣する制度です。

青年海外協力隊員になることは、伴木さんの子どもの頃からの夢だったそうです。30歳になったときに、長年働いてきた自動車整備の技術にも自信が付き、また帰国後の再就職のことも考え、これが自分にとって最後のチャンスと応募されました。

「インドネシアの生活にどうぶりつかりたいので、持っていく荷物はスーツケース1個だけ。この2年間で何かを掴みたい。その何かはまだわからないけれど、楽しむだけではなく、たくさん悩んだり、経験して、一回り大きくなつて戻って来たい。インドネシアに自分の足跡を残して。」と今後2年間の抱負を語られました。（企画課）

銭太鼓山川流高杉会
最優秀賞受賞



11月24日、世羅西タウンセンターで行われた「県民文化祭2002芸能の祭典」に熊野町から銭太鼓山川流高杉会総勢23人が参加出演し、見事最優秀賞を受賞されました。

受賞された高杉会からの報告を掲載します。

「超満員の中、鮮やかな着物で打つ・投げる、移動する等乱れない演技に終始拍手が止まりませんでした。

審査発表で最優秀賞と伝えられると、ひときわ大きな拍手が場内に響き渡り、気がついたら皆目頭を押さえていました。これもご支援くださいました皆様のお陰と感謝の心

で一杯です。これからも地域に役立つようがんばります。」（生涯学習課）

児童クラブの児童が
『花と歌』をプレゼント

青少年育成くまの町民会議では、11月の青少年健全育成強調月間行事の一環として11月22日に役員と第三児童クラブの児童が、町内の養護老人ホーム「和楽園」の皆さんに花を贈りました。

この花は、今年10月から児童自らが育て上げたものです。お年寄りの皆さんは、毎年贈られる「花と歌」の交流会を楽しみにしておられます。



（生涯学習課TEL 820-5621）